



まつざき真琴

県議会ニュース

日本共産党

鹿児島県議会ニュース
2013年9月29日号
9月議会特集(その2)

発行/日本共産党鹿児島県議団 〒890-8577 鹿児島市鴨池新町10-1
★TEL/FAX 286-3977 E-mail kengidan@jcp-kagoshima.com HP <http://jcp-kagoshima.com>
★ブログ まこっちゃんのいっぺこっぺ奮闘記 <http://matsuzakimakoto.synapse-blog.jp/>

まつざき真琴県議の9月議会での一般質問の中で、「医療費助成の現物給付化」について、お知らせします。ご意見、ご要望をお聞かせください。

3つの医療費を窓口で無料に

鹿児島県においては、重度心身障害者医療費、ひとり親家庭医療費、乳幼児医療費におきまして、県単独の助成制度を設けています。しかし、いずれも一旦病院の窓口で全額支払った後、2～3か月後に戻ってくる「償還払い方式」です。

鹿児島県身体障害者協会連合会から、重度心身障害者医療費助成を現物給付（窓口での支払が不必要）に変えてほしいという陳情が県議会に提出されています。また、母子寡婦福祉研修大会では、ひとり親家庭医療費助成を「償還払い方式」から「現物給付方式」に変えることを求める「決議」が挙げられました。鹿児島県市長会から出された県への要望書でも、乳幼児医療費助成の中学校卒業までを対象にして現物給付を求めています。

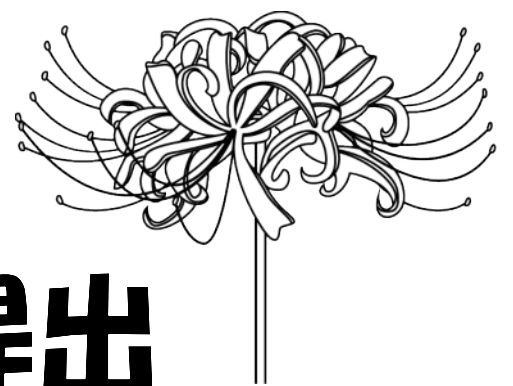
18日には、幼い子どもたちを連れてお母さんたちが県庁にいられて、乳幼児医療、ひとり親家庭医療、重度心身障害者医療の助成制度を現物給付にしてほしいという、知事あての署名11,876筆が、手渡されました。

まつざき県議は、県民のこれらの要望にどう応えるのか。知事が言う「子どもからお年寄りまですべての県民にとって優しく温もりのある社会」の実現のためには、これらの医療費助成は現物給付を決断するしかないと迫りました。

知事に再質問 現物給付を決断すべき

まつざき県議は、「知事は300億円のスーパーアリーナは簡単に提案された。どうして県民の命を守る医療費助成の現物給付を拒むのか。」と再質問を行いました。

知事は、「お説は分かるが財源が必要。」と答弁。財源確保を理由に、医療費助成の現物給付を後回しにしている姿勢が明らかになりました。



1万筆を超える署名を提出



9月18日に、「3つの医療費の窓口無料で安心して医療が受けられるかごしまをつくる会」のみなさんが、県知事あての署名を提出しました。要望項目は、次の通りです。

1. 乳幼児医療費助成は、現物給付（窓口無料）にすること。
2. ひとり親家庭医療費助成制度は、現物給付（窓口無料）にすること。
3. 重度心身障害者医療費助成制度は、現物給付（窓口無料）にすること。

小さな子どもたちを連れてお母さんたちや障害のある子どもを持つお母さんなどが参加されました。

その日の夕方のテレビのニュースで報道されました。

署名は、引き続き集めていきます。